

# 平成25年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

平成25年9月  
瀬戸内市教育委員会

- 1 目的 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施設の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 2 実施対象学年 市内全小学校第6学年及び中学校第3学年
- 3 実施日時 平成25年4月24日
- 4 実施内容 学力状況調査 小学校 国語A 国語B 算数A 算数B  
中学校 国語A 国語B 数学A 数学B  
学習状況調査

## 1 平成25年度 小学校6年生の結果

【国語】

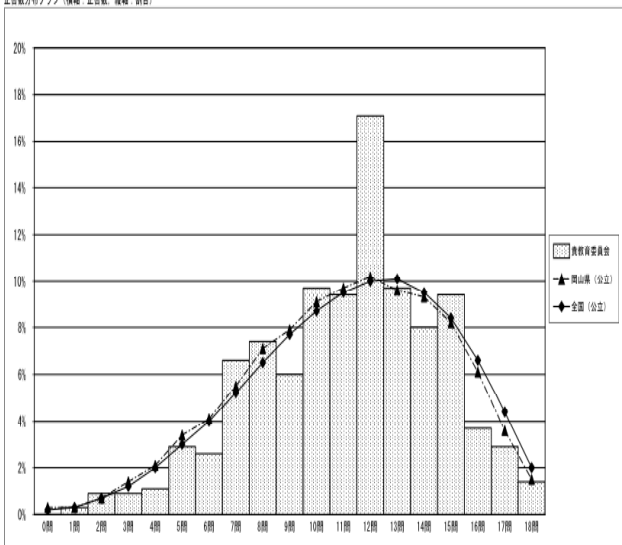
○平均正答率（単位：％）

\*（ ）内は国との差

	国語A（基礎）	国語B（活用）
国	62.7	49.4
岡山県	61.4	47.7
瀬戸内市	62.1（▲0.6）	47.5（▲1.9）

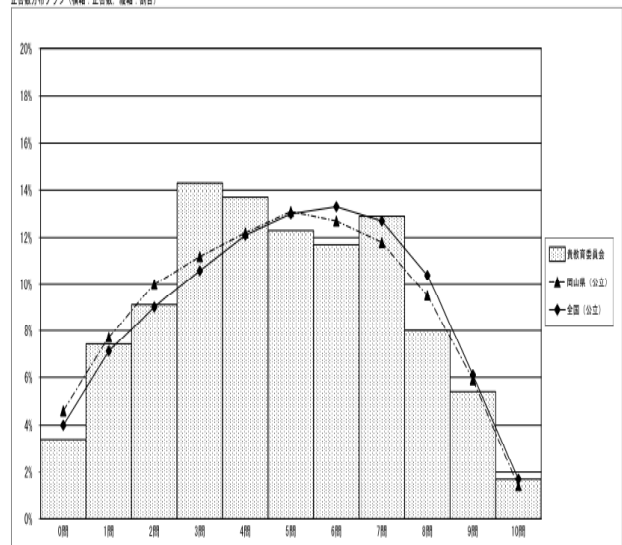
○正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：分布人数の割合）

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



（小学校6年 国語A）

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



（小学校6年 国語B）

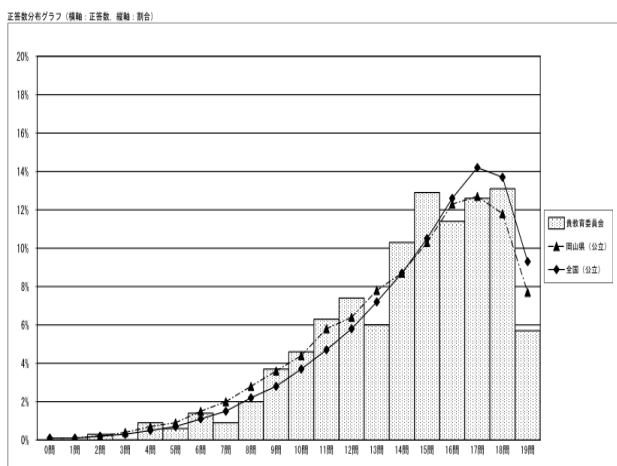
【算数】

○平均正答率（単位：％）

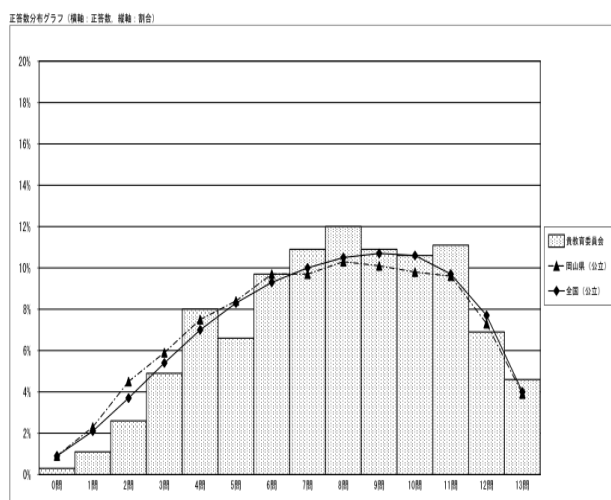
\*（ ）内は国との差

	算数A（基礎）	算数B（活用）
国	77.2	58.4
岡山県	74.6	57.2
瀬戸内市	75.3（▲1.9）	60.3（1.9）

○正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：分布人数の割合）



（小学校6年 算数A）



（小学校6年 算数B）

（調査結果の概要）

- 国語A…正答率で全国平均には届かなかったものの、県平均は上回っています。漢字の書き取りやことわざの意味等基礎的な問題はできていますが、一つの文章を接続語を使って2つの文に分ける問題では正答率が低くなっています。
- 国語B…正答率で全国平均より低くなっていますが、県平均とほぼ同等です。複数の資料を読んで解答を導き出す問題、与えられた条件を満たしながら作文を書く問題に課題が見られました。
- 算数A…正答率で全国平均と1.9ポイントの開きがあるものの、県平均は上回っています。帯分数同士の計算や台形の求積について課題が見られました。
- 算数B…正答率で全国平均、県平均を大きく上回りました。与えられた条件の中で解答を求め、その理由を説明する問題が良くできていました。市内の小学校で、授業改善の一環として授業中自分の考えをノートに書かせる取組の効果が現れたものだと思います。

## 2 質問紙調査の結果

全国平均と比較した瀬戸内市の子供たちの現状  
肯定的に答えた割合が全国よりも高い項目

項 目
○ 今住んでいる地域の行事に参加している。
○ 早寝、早起きをするようにしている。
○ 家で学校の授業の復習をしている。
○ 学校へ行くのは楽しい。
○ 学校のきまりを守っている。
○ 国語の授業の内容がよく分かる。
○ 読書が好きだ。
○ 算数の問題の解き方が分からない時には、諦めず色々な方法を考える。
○ 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

肯定的に答えた割合が全国よりも低い項目

項 目
● 土曜日や日曜日に1日2時間以上勉強をする。
● 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。
● テレビやビデオ、DVDを見ている時間は1日2時間以内である。
● TVゲーム（携帯式ゲームを含む）をする時間は1日に2時間以内である。
● 携帯電話やスマートフォンの使い方について家の人と約束したことを守っている。
● 普通の授業で、本やインターネットを使ってグループで調べる活動をよく行っている。
● 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている。
● 家で学校の授業の予習をしている。

（ 質問紙調査からみられる本市の特徴 ）

- 地域の行事に参加している割合は全国平均よりかなり高く、地域との関わりを大切にしている様子がうかがえます。
- 平日の家庭での学習時間は全国平均とほぼ同等ですが、休日の学習時間は大きく下回っています。休日に全く学習しない児童の割合も高くなっています。また、家庭でテレビやビデオを見る時間やゲームをする時間は県調査と同様平均値を上回っています。
- 算数の授業中に「自分の考えをノートに書く活動をしている」と答えた児童の割合が高く、これは算数Bの成績が良かったことと関連していると考えられます。逆に、国語の授業で書く活動をしていると答えた児童の割合は低く、国語Bの正答率が低かった部分と関連していると考えられます。

# 1 平成25年度 中学校3年生の結果

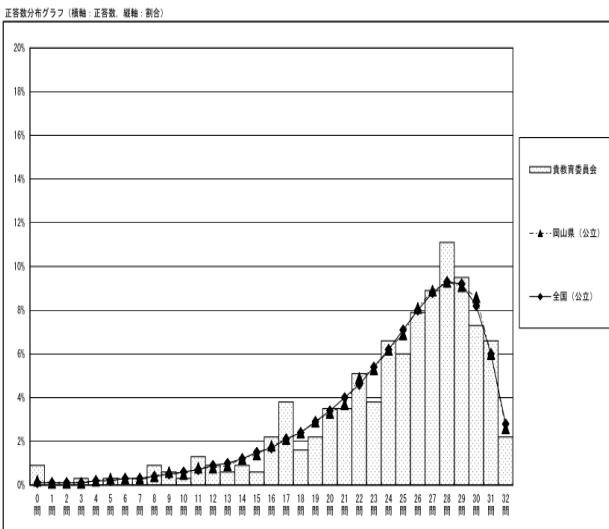
## 【国語】

○平均正答率（単位：％）

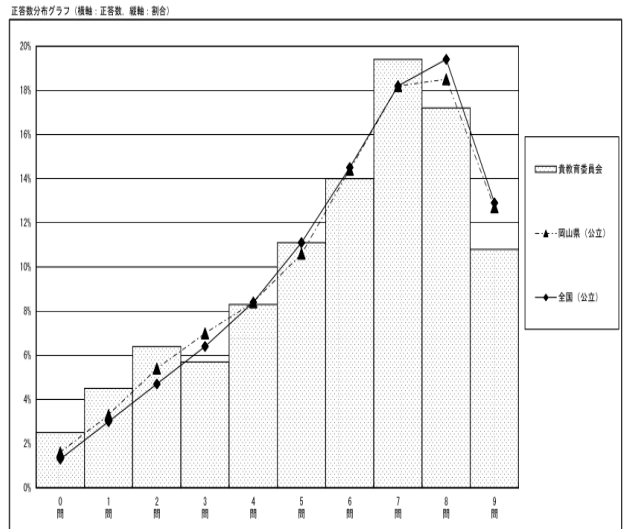
\*（ ）内は国との差

	国語A（基礎）	国語B（活用）
国	76.4	67.4
岡山県	76.4	66.4
瀬戸内市	75.8（▲0.6）	64.3（▲3.1）

○正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：分布人数の割合）



（中学校3年 国語A）



（中学校3年 国語B）

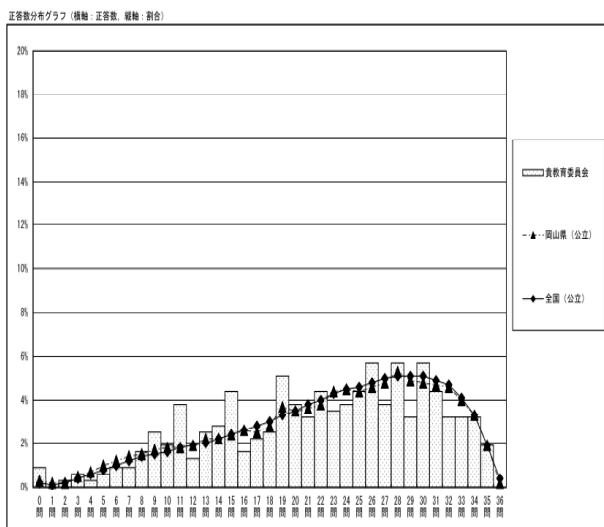
## 【数学】

○平均正答率（単位：％）

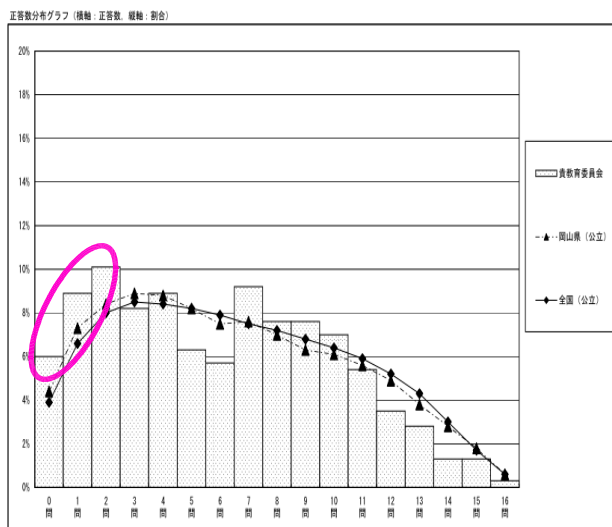
\*（ ）内は国との差

	数学A（基礎）	数学B（活用）
国	63.7	41.5
岡山県	62.8	40.3
瀬戸内市	60.7（▲3.0）	37.4（▲4.1）

○正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：分布人数の割合）



(中学校3年 数学A)



(中学校3年 数学B)

(調査結果の概要)

- 国語A…正答率で全国平均、県平均よりやや低くなっていますが、ほぼ同等と言える範囲です。基礎的学力はおおむね定着していますが、漢字の読み書き「風刺」(ふうし)「均等」(きんとう)にやや課題が見られました。
- 国語B…正答率で全国平均と4.1ポイント、県平均と1.2ポイントの開きがあり活用に課題が見られます。特に条件付きで自分の考えを書く問題の正答率が低くなっています。
- 数学A…正答率で全国平均と3.0ポイント、県平均と2.1ポイントの開きがあります。一次関数、図形の問題に課題が見られました。
- 数学B…正答率で全国平均と4.1ポイント、県平均と2.9ポイントの開きがあります。解法について説明をしたり、図形の合同を証明をしたりする問題の正答率が低く課題が認められます。  
正答率分布では全国・県の分布に比べて「誤答・無回答」の生徒の割合が高くなっているのが大きな課題です。( の部分)

## 2 質問紙調査の結果

全国平均と比較した瀬戸内市の子供たちの現状  
肯定的に答えた割合が全国よりも高い項目

項	目
<input type="radio"/>	自分にはよいところがある。
<input type="radio"/>	将来の夢や目標をもっている。
<input type="radio"/>	難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。
<input type="radio"/>	本を読んだり借りたりするために、学校の図書室や地域の図書館を利用している。
<input type="radio"/>	学校へ行くのは楽しい。
<input type="radio"/>	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
<input type="radio"/>	普通の授業で生徒の間に話し合う活動をよく行っている。
<input type="radio"/>	国語の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思う。
<input type="radio"/>	家で学校の宿題をしている。

肯定的に答えた割合が全国よりも低い項目

項	目
<input checked="" type="radio"/>	平日、家で2時間以上勉強している。
<input checked="" type="radio"/>	家で自分で計画を立てて勉強している。
<input checked="" type="radio"/>	テレビやビデオ、DVDを見ている時間は1日2時間以内である。
<input checked="" type="radio"/>	TVゲーム（携帯式ゲームを含む）をする時間は1日に2時間以内である。
<input checked="" type="radio"/>	携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている。
<input checked="" type="radio"/>	国語の授業で意見などを発表する時、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
<input checked="" type="radio"/>	数学の勉強が好きだ。
<input checked="" type="radio"/>	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いてる。
<input checked="" type="radio"/>	国語の文章題では最後まで解答を書こうと努力した。

（ 質問紙調査からみられる本市の特徴 ）

- 「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」「学校に行くのは楽しい」など自己肯定感が高い児童の割合が増えています。
- 家庭での学習時間は全国に比べてかなり少なく、逆にテレビやビデオを見る時間やゲームをする時間は全国平均を大きく上回っています。  
家庭学習を全くしない生徒の割合も高くなっています。
- 「数学の勉強が好き」という問いに肯定的に答えた生徒の割合が低く、数学に対する学習意欲が低くなっていることが課題です。